作品

基礎造形力養成を目的とした「そうぞう性」の視覚化

小橋　圭介

■はじめに

本研究では自身の創作活動を通して、「形」の基礎的な造形力を養う事、見つめ直す事に重点をおく。モチーフの構造や特徴を考察し、「象徴化」していく行程は想像力（イマジネーション）を養うために極めて重要である。また、その想像力（イマジネーション）を表現するためには創造力（クリエーション）が要求される。それは、「絵」を描く、「想像/創造する」という「ものづくり」に対する原点回帰でもある。例えるなら、子どもが玩具のブロックを自由に組み合わせて、動物やロボットを作って遊ぶような行為に近いかもしれない。子どものように純粋に「ものづくり」に対して没頭することで、研究者の内面にある「そうぞう性」を刺激し、作品へと反映させていく。制作した作品は学外展示などにより発表し、そこで得られた様々な知見を、また作品に活用していく。

■表現技法について

単純な幾何学形体（本研究では、○・△・□を使用）を用いた基礎的トレーニングを想定した制作を行う。各造形を制作するに辺りどのようなアプローチの仕方があるのか、そのバリエーションを検討していった。バリエーションを追加していく中で、極力「単純」な構造で造形が成立するように意識していく。何故なら、一見、要素(情報)の密度が多いものを整理していく方が困難に思われがちだが、実際には少ない要素で構成を成立させる方が難易度は高い。もちろん一概には言い切れないが、往々にして手数が多い方が構成自体は容易い。線を過剰に多くしたり分割を細かくしたりといった、手数を増やしただけの小手先の技術に留まらず、基本的な造形を理解しながらどのような構成が考えられるのか検討していった。本研究の作品群を、テーマから着想を得て「PRIMITIVE　MATERIALS POTENTIAL（根源的な造形の可能性）」と題した。

本研究は「造形」を中心に実施しているが、展示も視野に入れていることから試験的に「色彩」も取り入れた。プロセスカラー（CMYK）による選色も検討したが、より造形のテーマ性を体現できる手法を考えた結果、「レトロ印刷JAM」の印刷技術を活用することとした。理由として以下の点を挙げる。①孔版印刷（スクリーン印刷の一種）のためインクの「色ムラ」や「カスレ」が起こること。②１色ごとに色を重ねていくため「版ズレ」が起こり、印刷物ではあっても一枚として同じものが無いこと。選択できる色も32色と豊富で、いずれもプロセスカラーでは再現できない点も魅力的である。これらの特徴は「根源的な造形」を表現する要素として、非常に親和性が高いと判断した。色の「混色」や「調和」について意識して、全作品（36点）が異なる色の組み合わせになるよう注意して配色していった。

■まとめ

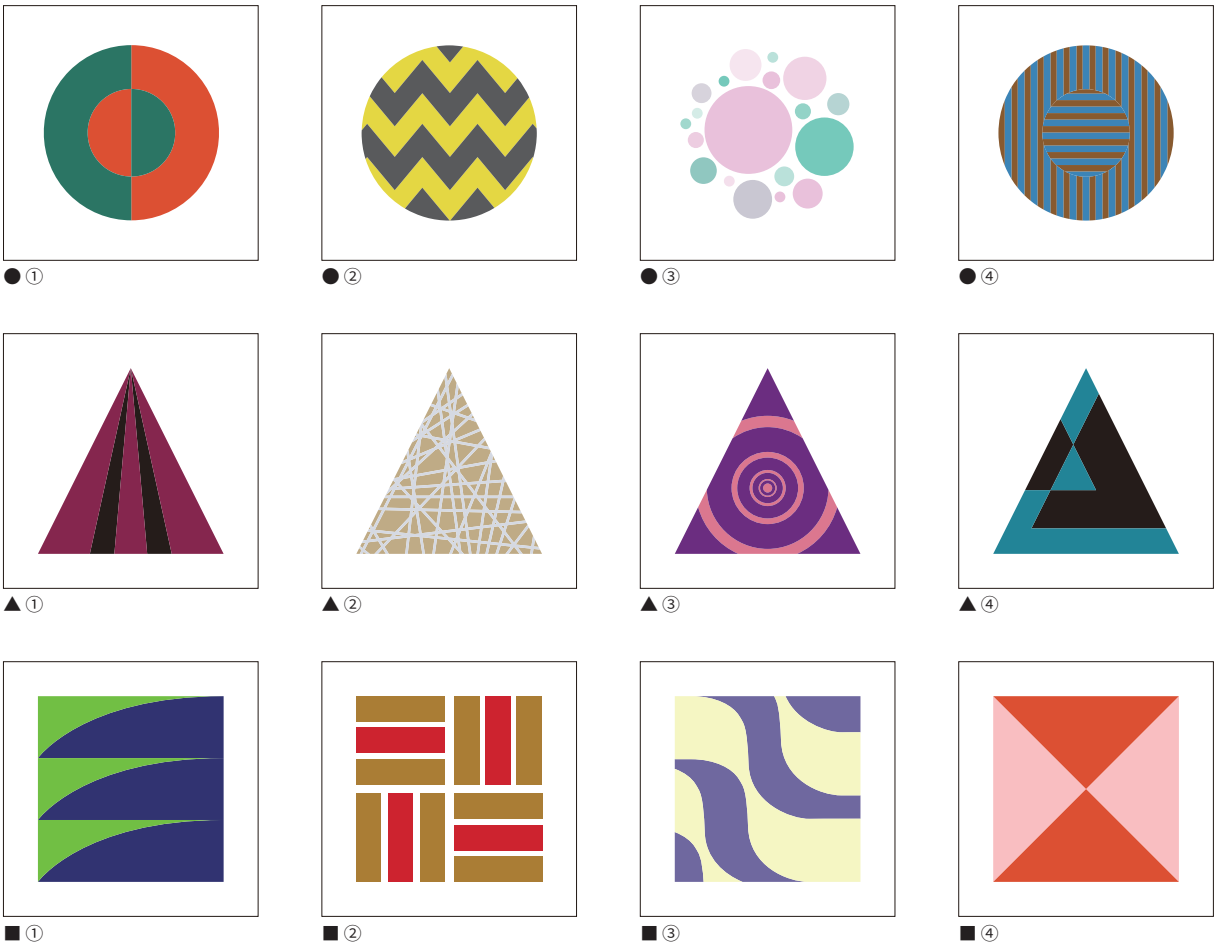
研究成果の発表として、2019年９月19日（木）～23日（月）、ギャラリー「アテリエ・セレーノ（山口市湯田）」にて展覧会を開催した。５日間で105名の来場者に足を運んでいただき、作品について様々な意見をいただくことができた。展示ということもあり、作品の見え方について検討した結果の「色」ではあるが、大半の鑑賞者から出た意見は「色」についてであった。造形において「形」と「色」は切っても切れない関係ではあるが、そのバランスには余地があると痛感し、今後の検討課題とする。その一方で興味深かったのは、来場者の「子ども」の発言である。「新幹線みたい！（■①）」、「お箸みたいに見える（▲①）」など、制作者自身全く想像していないような見方をしてくれたのだ。「根源的な造形」の可能性はこのような点にも現れている。つまり、「柔軟な解釈の許容」である。例えばアンケートなどで、造形とそれに伴うイメージの関係性を探っていくのも面白いかもしれない。は

からずも、今後の研究テーマについて視座を得られた点は大きい。

今後も制作を継続し、次回は「色」を単色に絞るなど出来る限り「造形」に着目して意見が得られるような発表方法を検討する。先に触れたアンケートについても合わせて検討していく。

基礎造形力養成を目的とした「そうぞう性」の視覚化

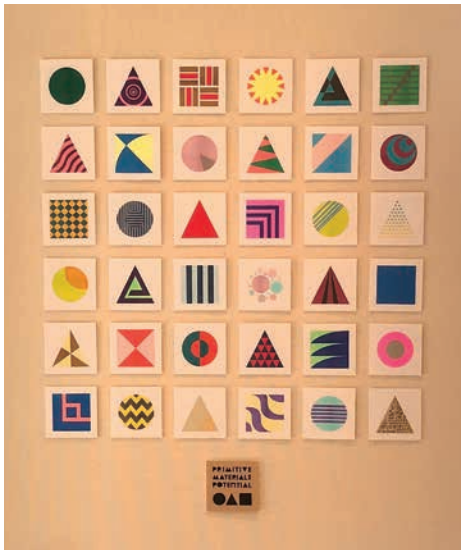
Visualization of “Creativity/Imagination” to Cultivate Basic Formative Skills



●①　●②　●③　●④

▲①　▲②　▲③　▲④

■①　■②　■③　■④



展示風景（2019年9月19日（木）～23日(月)、ギャラリー「アテリエ・セレーノ（山口市湯田）」）

Visualization of “Creativity/ Imagination” to Cultivate Basic Formative Skills

This study aims to stimulate “creativity/imagination” within the researcher through formative activities. The produced works are presented in public at exhibitions, etc., through which the study incorporates knowledge obtained from such presentations in its further creative works.

To be more precise, the study used simple geometric shapes (i.e. circle, triangle and square) to create formative works. Because the works are intended for display, “colors” were used in the work to make them look more impressive. As a result, most of the re-marks obtained from viewers mentioned “colors”. While the shapes and colors are insepa-rable in creating forms, there may be room for a better balance between the two, which shall be examined in future studies. The study will continue to engage in the creative pro-duction with an aim to discover formative expressions that can elicit as much remarks on “forms” as possible by just using a single color, etc.